

エリア ウェブ

峡東教育事務所
地域教育支援スタッフ
TEL 0553-20-2737
FAX 0553-20-2733

回覧・配布をお願いします。増す刷り配布はご自由にどうぞ。この情報紙は山梨県庁のホームページでも掲載中です。
<http://www.pref.yamanashi.jp/barrier/html/kyoiku-hym/index.html>



「手をかけ過ぎず」「手をぬき過ぎず」 『いい加減の子育て』の大切さ。

犬の散歩の途中、桃の手入れをしていたおじいさんと話をしました。

日に焼けた顔に、白髪交じりの頭。節くれ立った手には、何十年も使い込んだ黒い剪定ばさみが握られていました。そのおじいさんは、健康そうな白い歯を見せて、こんな話をしてくれました。

「木を育てることは面白いよ。正直なモンで、手をかければちゃんと応えてくれる。でもナ、かけすぎるとかえって木をダメにするんだ。

例えば水でも肥料でもたくさんやり過ぎるとくさってしまうのだろ。

人間の子もだって、同じだな。」

短い中にも多くの経験に裏打ちされた重みのある言葉でした。

おじいさんの畑の桃の木をふと見ると、まるで枯れているような木の枝に、少しふくらんだつぼみが、しっかりとついていました。

またこんな場面もあります。

パンをかじって...

子どもがパンをほおばりながら、

「行ってきまーす。」

お母さんは布団の中から、

「気をつけてね。」

と言ってくればま だいい方で、眠っていて返事もしない ときもあります。



明るい表情を見せて、子どもを元よく送り出したいものです。

一人でカップラーメンの朝食...

自分一人で、カップラーメンを作って、朝食を食べる子ども。実は昨日の夜もカップラーメン。確かに空腹は満たされますが、子どもたちの心は満たされないことでしょう。

毎日ガミガミ言われ、ストレスやイライラをふくらませていく子どもたち。さみしい朝食の毎日で、生活意欲がどんどんしぼんでいってしまう子どもたち。

どちらにしても、子どもの成長に決していい影響は与えないでしょう。

「子どもがちっとも動かないから...。」
「夜遅くまで働いているから、どうしても朝起きられない。」

いろいろな家庭の事情があると思います。でも、手をかけるところにはかけ、見守るところは見守る。

『いい加減』とは、まさに「加え過ぎず、減らし過ぎず」なんですね。

いろいろな家庭の朝の様子があります。こんな声が多いと要注意です。

「起きなさい！いつまで寝てるの！」

一日の最初に聞く声が、この大きなどなり声では「今日も一日頑張ろう！」という気持ちになりませんね。

「早く着替えて。ちゃんと顔を洗って。しっかり食べるのよ。」

朝の言葉で一番多いのが残念ながら、『早く・ちゃんと・しっかりと』です。

「ハンカチ持った？」「筆箱入れた？」

「ほら、PTAの通知は？」

子どものことを信用せず、確認の嵐。これでは子どもが「親に信用されてない」と感じるのは当然です。

「励まし」と「しつけ」を使い分ける

子どもに良い変化をもたらすためには、次の二つの手段が大切だと言います。

一つ目は、「励まし」。

二つ目は、「しつけ」。

確かに「がんばれ、がんばれ」だけでは子どもはどのように努力したらよいか分かりません。ストレスだけがどんどんたまっていきます。また、いつも親が手を出していると、いつまでも親の手を借りないと行動できない子になります。「しつけ」をすることによって、自分でできる力を身につけるのです。

では、子どもを励ます上で大切なことは何でしょうか？

それは次の5つのメッセージを伝えることです。

あなたを信じている（信頼）
あなたならきっとできる（自信）
あなたをいつも見守っている（安心）
あなたはとても大切だ（存在感）
あなたは自分で決められる（自由）

こんな励まし方はどうでしょうか？

「一生懸命勉強して100点とったら、あなたの好きな物を買ってあげるね。」

「しっかりやらないとお父さんに怒ってもらうからね。」

これは「励まし」ではなく、「アメとムチ」「褒美と脅迫」です。これでは、見返りがないと動かない、怖いから行動

する子どもになってしまいます。

また、「子どもが伸びるしつけ」の4つのステップも紹介しておきましょう。

まず、子どもがやってしまったことをはっきりさせる。
次に、子どもを問題の当事者にする。子どもが自分で問題を解決するための選択肢を与える。
子どもの尊厳を傷つけない。

例えば、ガラスを割ってしまった子どもに、こんな風に接してみてください。

「ガラスを割ってしまったんだね。」
「あなたが遊んでいて、不注意で割ってしまったんだね。」
「あなたならこの問題を解決できるはず。例えば、と、とどっちの方法がいいと思う？」
「いつもは慎重なのに、今日は失敗したね。気をつけよう。でも、ケガがなくて安心したよ。」

子どもたちからとって、やたらと叩いたり、怒鳴ったりしていいはずはありません。子どもが苦痛を感じるのなら、しつけとは言いません。サーカスの動物の調教とは違うのです。子どもたちが納得するように叱り、失敗から立ち直るよう手助けをしてあげてください。

ある朝の親子の姿...

まだまだ寒いある朝、車で職場へ向かうとして信号待ちをしていたときのことです。ふと横を見ると、寒い中、一組の親子が細い路地に立っていました。

どうも、集団登校のグループを待っているようです。まだ小学校2、3年生ぐらいの男の子とお母さんが、何も話さず、じっと抱き合っていて寒さをしのいでいました。男の子はお母さんの胸の中で、暖かい布団にくるまっているような、実に安心した顔をしていました。

登校までのわずかの時間に、たくさんのエネルギーをもらっているようです。信号が青になり、車を走らせたのです

が、まだその場にいたいような、そんな心温まる雰囲気でした。

子どもに投げかけるどんな言葉よりも、母親の温かい抱擁に勝るものはないと改めて感じた朝の出来事でした。



ろう学校の交流教育

地域交流

「山梨県立ろう学校」では、同世代の集団や地域での活動を通して、子どもたちの生活経験を広げ、社会性を伸ばすために、峡東地域の学校や施設等と幅広く交流を行っています。

幼稚部から高等部、生徒会や寄宿舎まで、交流の形も様々ですが、その年間約90日。内容は、教科学習での授業交流や行事への参加に始まり、勤労体験学習、部活動やボランティア活動、体験活動等多岐にわたっています。

一口に、交流の推進と言いますが、実現に至るまでには、交流先の理解、行事や教育課程の調整、移動時を含めた安全の確保など様々な課題があります。また、実施にあたっては、毎回綿密な打合せを行い、場合によっては保護者の協力も得て、実施します。

一連の教育改革の中で、「特殊教育」も「特別支援教育」に移行するなど、ろう学校の先生方の業務も確実に増えていきます。その中で、これだけの交流ができるのは、長い間の積み重ねと職員・保護者の努力の賜物だと思います。

交流先の方々が「特別な活動ではなく、自然に交流している」と口を揃えられている点に、この交流の歴史の重みと意義を感じます。

- 幼稚部 ← 山梨陶磁会
- 小学部 ← 養護老人ホーム「清風園」
- 中学部 ← JA フルーツ山梨加納岩支所
- 高等部 ← 身体障害者授産施設 山梨クリナース
- ← 心身障害者通所授産施設 勝沼授産園
- 寄宿舎 ← 手話サークル「ふえふき」



陶芸教室の様子です。指導して下さった陶磁会の飯島会長も驚くような素晴らしい発想の作品がたくさんできました。学園祭で展示しました。



手話サークル「ふえふき」との交流の様子です。フットサルやミニ手話教室に真剣に取り組み、楽しいひとときを過ごしました。

学校間交流

- 幼稚部 ↔ 加納岩保育園
- 小学部 ↔ 山梨小学校
- 中学部 ↔ 春日居中学校
- 高等部 ↔ 山梨高校



幼稚部の交流の様子です。保護者からは「我が子の目が生き生きしていた」「大集団での生活も大切」等、交流に期待する声がたくさんありました。

その他の交流

- 部活動 ↔ 中学校、高校
- 生徒会 ← 山梨英和高校 (ボランティア活動)
- ← 勝沼授産園 (ボランティア活動)
- 小・中学部 ↔ 居住地校交流
(H18年度は小学部のみ実施)
- 高等部 ↔ 身延山高校手話コミュニケーションクラブ